

NEWS

名公医ニュースレター

LETTER

令和6年2月
Vol.18



今年は辰年である。龍ははるかかなたの竜宮から舞い上がり、災いを除き、万民に福を与える神龍と伝えられる。今年は神龍が世界をめぐり、各地の痛ましい戦乱を鎮め、平和と繁栄をもたらしてほしいと願っている。平和が訪れれば、龍は深い水に潜って、潜龍となり静かに世を見守ってくれるのである。ちなみに12年前の辰年には、山中伸也教授がiPS細胞でノーベル賞を受賞しており、今年も世界を救う大きな発見に期待したい。しかしながら新年元日に能登半島地震が発生、大きな負のスタートとなつたが、総力を挙げて再建を急ぎ、さらに全国的に新しい発展を期待している。それだけの実力はあるからである。

目次

羅針盤	
人生100年時代とセルフ・ヘルス・ケア（自己健康管理）	… 2～3
伝染病流行について	… 4
睡眠時間と不眠症対策／筋トレ時の注意	… 5
飲食と健康	… 6
医学漫歩	… 7

AI医療の大きな進展／児童虐待防止法の成立	… 8
新しい一般医学用語	… 9
がん検診の効率／喫煙問題について	… 10
環境問題対策に向けた新たな検診車導入	… 11
編集後記	… 12

羅針盤

人生100年時代とセルフ・ヘルス・ケア（自己健康管理）

人生100年時代に入ったという。2021年に100歳以上の生存者が8万人を超しているので、現在は10万人を超したことは間違いない、更に増加が続いていると思われる。これは素晴らしい動向である。これは、だれでも100歳を超す可能性があるということであるが、すべての人が100歳を超えることができるわけではない。中高年期に遭遇する難関を一つ一つ乗り越えてゆく必要がある。日本人の年齢別死亡率を見ると、すでに50歳くらいから急激に高くなっている。生活習慣病、老化と関連した病に関連するものが原因であるが、これまでの研究から治療法が開発され、健康寿命も延長してきている。それでも、70歳代を超すと死亡確率がさらに高くなる。そうした危険と直結するこれら障害を乗り越えてゆく必要がある。それには、社会全体の健康対策の向上とともに、個人的な対策、自分の健康状態を常に把握し、異常を感じれば早期の対応をするということである。血圧管理、がん検診などを怠ってはならない。最近はがんの予後も大幅に改善しており、増加している糖尿病の治療法も一段と進歩している。それでも70歳以上の人々には、健康維持にさらなる努力が必要である。

百寿を超した人の体験について、多くの報告が積み重ねられている。手短にまとめてみると、バランスの取れた食生活、体力に適合した運動の選択と継続、そして心の持ち方ということである。また、高齢者はできるだけ長く仕事を続けることなどが挙げられている。

食生活

毎日3回摂取する食事は健康維持に最も重要なである。基本として、毎日多種類の食品をとるよう努力せねばならない。一日に30品以上といわれると大変な気がするが、例えば10種類以上の野菜をスープにしたり、みそ汁などの具に入れれば簡単に10種類となる。それにご飯、魚と野菜やショウガを調味料と煮れば4種類となり、おひたしでも3種類となる。大根、油揚げ、切り干しなどの煮つけは5種類以上になるものが多い。漬物や果物などがあればさらに種類は増える。30品は難しくはない。変化のあることが望ましいので多少の工夫は必要である。高齢者は大食を避けたほうが良いので一皿の量を少なくする。食品の質としてはタンパク質は重要で、個人差はあるが高齢者は魚を中心としたほうがよい。乳製品は努めて摂取するようにする。



運動

運動は人が生き続けるのに基本的に重要なである。特に高齢者は運動不足であり、努力が必要である。体力にあった運動を、疲れない程度に繰り返したい。運動は全身の血行を良くするばかりでなく、ホルモン様物質が分泌されるので全身の臓器の回復に役立つ。

歩行は基本的な運動となるが、座位でも臥位でも機会を見つけて体を動かすことである。

その他、手を当てる、さする、マッサージをすることも運動の一種で、かなり実際の効果がある。子供の時代、体の痛みに母親が手を当てるだけで痛みが軽減した経験を持つ人は多い。大人でも同様であり、機会あるごとに試したい。

体を動かすもう一つの効果は、前に述べたように、運動により骨細胞が刺激され、種々のホルモン様物質が放出されることである。これらのホルモンは、血管系、腎泌尿器系、それに脳の病の治療にも役立っているとの報告が相次いでいる。新しい研究が多いのでさらに追加してお伝えしたい。

心のもちかた

心の問題も重要である。高齢者は体力の低下とともに不安感が増加し、孤独に陥りやすい。そして普通のストレスでも若い人より大きな影響を受ける。これが続くと身体不調につながる。ストレスは軽視してはいけない。ストレスには、常に心に余裕をもって対応することが必要であるが、いつもそうはゆかない。老人は忍耐力は強いが、もろい部分がある。日ごろから世間や、人の心の動きを感じることに努め、より深く理解力と寛容により対応してゆきたい。

就労を続ける

高齢になっても働く職場があれば非常に良い。すべての人には難しいが、働けるよう努力は必要である。自分が頼られていることは生き甲斐であるからである。体力の衰えは心の持ち方でかなり変わる。100歳まで生き抜こうとする意欲は持ち合わせたい。



伝染病流行について

新型コロナウイルス感染症も重症者が激減して脅威は去ったが、専門家の間では今後のウイルス変異を慎重に見守っている。インフルエンザ流行も復活したが、対策もあり、重症者は少ない。しかししばらくは注意をせねばならない。致死的な病ではないが、ロタウイルスなど消化器系の伝染病パンデミックもあり、飲食物には注意していくたい。

昔からの伝染病であるが、現在でも注意したいのは結核と梅毒である。結核は1950年代に有病者300万人と推定され、国を挙げて対策を続けた結果、20年後には半減し、さらに減少を続けていた。しかし、最近数年間は低率ながら新登録患者は減少せず、横ばいである。愛知県を見ても年間1000人前後で減少してはいない。患者の30%前後は排菌者であり、若年者が多いので問題である。結核は特効薬があり治癒できる病なので、早期発見とともに、完全治療を目指さねばならない。感染源は若年者にもあるが、我が国は70歳以上に結核有所見者が多く、その中で排菌者もみられるので、検診後の指導も重要な思われる。

なお、非結核性抗酸菌症で難治な症例も少なくない。体の抵抗力の弱った人に発症する。いろいろな治療法も開発されているので、菌陰性化まで治療継続が望まれる。



梅毒も敗戦後大流行し、亡国病と呼ばれたが、官民挙げての対策で漸次減少、根絶したかと思われた。しかし最近また増加傾向にある。愛知県での登録患者数は毎年増加しており、全国的にみても2023年は前年に比べ、約1000例増加している。これは登録患者の数であり、登録しない患者も少なからず存在するので、今後感染者数の増加が懸念される。感染後治療せず放置すれば、あまり症状を示さずに潜在的に進行し、重大な結果を招くうえ、新しい患者の増加にもつながる。登録すれば治療費は公費負担であるので心配はいらない。前にも指摘したが、妊婦化患者からの先天性梅毒児の増加は痛ましい結果である。米国などでは小学校や中学校で性教育を普及させ、校内でコンドームを無料で配布しているほどである。しかし日本では保護者の反対もあり、性教育には消極的である。予防できる病であり、現状を広く知らせるとともに、積極的な衛生教育の展開を期待している。



睡眠時間と不眠症対策

1日の睡眠時間と死亡率との関係を調査した結果では、1日7時間の睡眠者が最も長生きであった。睡眠時間が短くても長くとも死亡率は高くなっていた。必要な睡眠時間が示されたわけである。厳密に7時間ととらえるよりも、平均の目安と考えたい。一方、長過ぎても健康障害があることは十分注意してほしい。体調が悪い人は医師と相談してほしい。短か過ぎる人は過労が多いので、健康障害を引き起こしやすい。過労死が問題になっている時代である。

睡眠不足は脳を酩酊状態にし、身体の活動能力を低下させる。

睡眠は、ノンレム睡眠とレム睡眠が交互に現れる。レム睡眠は筋肉が完全に弛緩し、体が休

息する、深い睡眠である。しかし脳は活発に働いており、夢を見る。マウスではレム睡眠中は大脳の血流が増加し、レム睡眠が長いと大脳のアミロイド β が減少する。同時に記憶学習力も向上する。また、ストレス抵抗性が上昇する。人でもレム睡眠が減少すると総死亡率が上昇するとか認知症のリスクが増加するという報告もある。

不眠症は健康障害の大きな原因であり、うつ病などは3倍も多く発症する。また、最近増加している認知症の発病も4倍も高くなるという結果が出ている。これらは治りにくい病気であり、早期に専門家と相談する必要がある。現在は診断法も進歩し、適切な薬剤も開発されている。

筋トレ時の注意

高齢者は栄養不足や老化により体力が低下するので、筋トレが勧められている。若年者と異なり、筋トレによる障害もあるので、その方面的指導者である荒井秀典先生は以下のような注意事項を述べられている。

- 筋トレは無理をせずに徐々に始める。
- 筋トレはストレッチをして、体を温めてから始める。
- 痛みが出たら休息する。
- トレーニング中の転倒に注意する。近くに柱や壁などつかまりやすいものを見つけておく。
- トレーニングはゆっくりしたテンポで行う。

- 水分の補給も考えておく。
- 筋トレは自己流でよい。変えないことである。
- 筋トレは毎回複数の種目を行う。

継続することが重要である。筋肉の衰えは50歳代から始まるので、できれば早くから始めたい。しかし何歳から始めても効果があるので諦めないでほしい。

なお、筋肉や骨の保全には栄養が基本的に重要であり、食生活の改善にも努力してほしいといわれる。

飲食と健康

さつまいもの抗がん作用

道岡攻博士ら（秋田大学一尚絅女学院短大）は早くにサツマイモに抗白血病作用があることを報告していた。1995年には、サツマイモの葉、つる、茎、地下茎のすべてから、がん細胞の増殖抑制、分化を促進する糖脂質を抽出した。抗がん作用を確認し、食品として利用できることを証明、その特許を出願し、1995年に公開されている。当時はあまり注目されなかった。

その後、他の領域で野菜のポリフェノールの抗腫瘍性の基礎的研究が世界各地で断続的に発表されていたようである。近年、特に紫色のサツマイモで他の色のサツマイモに比べ、抗腫瘍性が相当に高いことが確認され、紫サツマイモを中心に実験的研究が発表されていることが分かった。

その抗腫瘍性を見ると、大腸がん、乳がん、頭頸部癌、肺がん、膀胱がんなど多くの臓器の修復に有効なことが発見された。外国の研究であり、日本は後れを取ったわけである。

もっとも、サツマイモだけではなく、ブルーベリーなどのベリー類、赤色キャベツ、紫玉ねぎ、にんじんでも同様の抗腫瘍性作用が観察されている。

我が国はサツマイモの消費量が多く、歓迎すべき結果である。しかし、消費されているサツマイモのほとんどは抗腫瘍性の低い黄色のものであり、より有効な赤色サツマイモも沖縄などに限られている。紫色のサツマイモは味が良くないので生産量が少なかったが、最近愛知県の一地方で味の良い紫色のサツマイモが開発、発売されている。なお、サツマイモの根や茎は血小板減少症にも有効との報告も出ている。サツマイモでがんが予防できるならば極めて容易なことである。もっとも、今後の疫学的研究での検証が必要である。

鍋物

宴席で余った食べ物を混ぜ合わせて煮込むとおいしいことは多くの方々が経験されておられる。栄養価も高く、優れた献立である。鍋物はもともと地方には古くからあった食べ方のようである。

世界的に有名になったのは清朝の大統領李鴻章が訪米した際、残った御馳走をまとめて煮込み、それは非常に美味であったことから全米に広がったとの話がある。当時これは肉雜破と呼ばれた。日本でいう雑炊である。たくさんの食品を煮込むので栄養価が高まり、抗酸化作用も強いことが確かめられている。もっとも、中国でもかなり変わったレシピになっているようであり、南条武則氏は李鴻章大統領の出身地、合肥に立ち寄って大統領大雜燴を注文したが、贅沢な五目うま煮とは全く異なる、臓器とイカなどが入っている黄色く混濁したスープであったという。



医学漫歩

徐福のDNA

国立病院機構鈴鹿病院名誉院長 小長谷 正明

紀伊半島南部の熊野市や新宮市には“徐福の宮”や“徐福の墓”などがある。中国漢代の『史記』によると、徐福という方士（不老長寿への修行者）が、秦の始皇帝に「東方の三神山に長生不老の靈薬」があると具申し、皇帝の命を受けて三千人の童男童女と百工を従え、財宝と財産、五穀の種を持って東方に船出したという。が、三神山に至らず、「平原廣沢」を得て王となり、秦には戻らなかつたという。出発は現在の山東省あたりで遼東半島の南、上海の少し北、時は紀元前3世紀、たどり着いた先が日本だったとのこと。つまり、徐福が農作者や技術者を率いて日本に集団移住してきたというのだ。もちろん、徐福は詐欺師で始皇帝をペテンにかけただけ等の異説もあり、物的証拠もない。また、日本人は日本列島固有の縄文人と、紀元前1000年頃から東北アジアや朝鮮半島から稻作を携えてやってきた渡来人との混血して弥生人ができて、現代に繋がるといわれてきた。徐福のような中国本土からの人々についてはあまり言われてこなかった。

ところが、近年の分子生物学的解析によると、この徐福伝説は全てがフェイクとは言えなくなつた。2022年のノーベル医学・生理学賞は、ネアンデルタール人などの古人骨のDNA解析を可能としたスパンテ・ベーボ博士に贈られたが、古代日本人の人骨から取り出したDNAを次世代シーケンサーなどで解析し、統計学的検討により、日本人の成り立ちにも新しいことが分かつた。

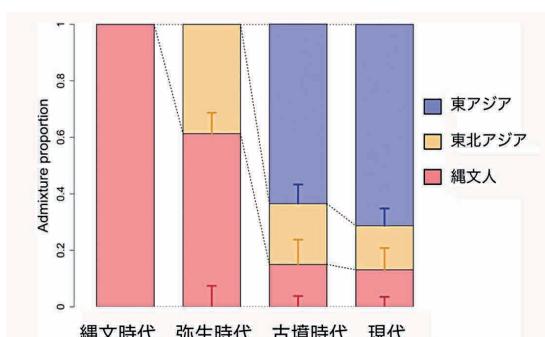
金沢大学とアイルランドのトリニティ大学の共同研究によると、2万年から1万5千年前に朝鮮半島から陸続きに日本列島に千人程度の東南アジア由来の集団がやって来た。その後海平面の上昇で日本列島が大陸から分離したため、孤立化した人類集団、つまり縄文人となり、独特の文化を造っていた。DNA解析でも他に類例を見ない独特的のパターンを縄文人は示している。3500年くらい前から再び朝鮮半島経由で東北アジアからの集団が農業文化を持って流入し、弥生時代となった。この頃の人骨からのDNAは縄文人由来6割と東北アジア由来4割のミックスとなつ

ている。1700年前くらいからの古墳時代は日本に政治権力の存在がはっきりとしてきた時代だが、その頃の庶民の人骨では、縄文人由来1.5割と東北アジア由来2割であったのに対し、東アジアに広く分布しているタイプが6割以上となり、その比率は現代日本人とほぼ同じという。

つまり、古人骨のDNA解析では、日本人の起源は、従来から言っていた縄文人や弥生人だけではなく、二千年以上前くらいからの東アジアの人たちの遺伝子を多く受け継いでいることになる。徐福伝説は熊野地方だけではなく、佐賀や長野、はたまた青森など日本各地にあり、祖先は大陸からやってきたという伝承が、史記の徐福に上書きされてきたのだろうか。

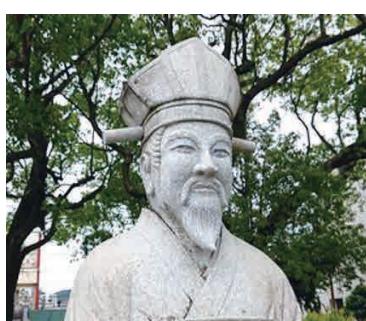
ともあれ、生命科学の発展は、薄暗がりの古代史の謎にも解明の光を与えてくれるようになつた。不老不死の仙薬を求めて日本にやってきた徐福のDNAも、ひょっとしたら僕にも流れているかも知れないと考えると楽しくなってくる。

Cooke NP et al. 2021. Ancient genomics reveals tripartite origins of Japanese populations. SCIENCE ADVANCES. DOI: 10.1126/sciadv.abh2419



時代ごとの日本人のDNA組成

Cooke et al.改編



徐福像
(新宮市徐福公園)

AI医療の大きな進展

AI医療は短期間の間に大きな進展を遂げている。医療機械では画像診断だけではなく、ロボットの進出が世間の注目を浴びている。手術も人よりも安全という触れ込みである。医療看護体制にも大きな影響を与えている。また、認知症の診断や徘徊の対策にも用いられ、地域医療や健康管理にも貢献し始めている。新型コロナウイルス対策にも活用されて効果があった。最近は健康診断医もAI化が始まっている。検診現場でも工夫してAIの活用を図らねばならない時代になった。すでにスマートウォッチが出来上がっており、消費カロリー、呼吸数、歩数、心拍数、血圧が持続的に記録されている。自己健康記録も登録できるので、健康手帳に変わりうる。オンライン診療にも適用できるので、忙しい人には有用である。しかし、我が国はAI化が遅れており、官民挙げての努力が必要のようである。

認知症と徘徊防止

徘徊をする患者の介護は容易ではない。そのため、徘徊検知システムが開発され、実用化されている。

認知症の早期発見

認知症は徐々に認知機能低下が進む病である。そして、早期に異常を発見すれば、治療も容易である。

IoTという小型のセンサーが開発され、家の各所に取り付けて、患者の行動を記録し、それを分析して対応を決める。

大型の機器ではロボットの開発が進められ、入浴などの介護支援、会話、さらにリハビリ支援ロボットが登場している。AI医療なくしては今後の医療はないという勢いである。



児童虐待防止法の成立

最近マスコミをにぎわせている児童虐待について、防止法案が可決された。児童虐待は、未来を担う人的資源の破壊であり、重大な問題である。児童虐待の相談件数は、2005年の34,472件から2021年には207,060件へと6倍に急増している。内容は身体的虐待が約40%、心理的虐待が約60%、ネグレクトが約6%、性的虐待が約1%

である。虐待者は実母が47.5%、実父が41.5%であった。どうして自分の子供を虐待せねばならないのか、人とは何かを基本的に問いかける問題であり、マスコミの報道が多く、解決には特定の親だけではなく、多面的な対策が必要のように思われる。結婚、出産、育児については、学校での教育も重要なように思われる。

新しい一般医学用語

サルコペニア

すでに紹介した用語であるが、最近定義が変わったので、取り上げた。

サルコペニアとは、体の筋肉量の減少のほか、筋力、身体機能の低下を伴うことを含む。一般的には、老化に伴い、男性ホルモン（テストステロン）が減少すると、炎症性サイトカインが発生しやすく、タンパク質の分解を促進させるので、筋肉量が減少する。栄養や運動も関係する。高齢者は食欲が減退し、運動量も少ないので、筋肉が衰える。したがって、栄養を改善し、運動に努めることが必要である。それに高齢者はビタミンDが不足しがちであり、タンパク質をより多く摂取することにより、サルコペニアを抑制できる。

ビタミンDは、一日に20～25 μg を摂取し、20～30分の日光浴、タンパク質は体重1kgにつき1.0～1.2g (50kgの人なら50～60g)取ればよい。食事は3食ともバランスの取れた献立を考える。歯も重要であり、時々歯科で診察を受けること。

運動は血行を良くするだけでなく、他の臓器の機能回復に役立つホルモンを出すので、是非毎日続けてほしい。精神的なうつの状態も改善する。

プレシジョン・メディシン（精密医療 個別化医療）

プレシジョン・メディシンとは、個人の特性に応じた治療法を選択して実施することをいう。治療法の選択には、個人の医学的特性、遺伝子、環境、生活習慣を総合的に考慮する。そのためには多くの基本的なデータが必要である。特に大規模な手段での遺伝子のゲノム解析には新しい大規模なシステムが必要であり、現在世界各地で解析が進められているところである。環境因子や生活習慣内容についても、客観的な数値化が必要である。すでに、2015年に米国で企画され、巨大な予算をかけて始められている。世界各国がこれに追従しており、我が国でも始めている。その成果が待たれるところである。

ナッジ理論

AI医療でよく使われるようになった理論。2008年に経済学者の提唱した理論で、彼は2017年にノーベル賞を受賞している。

ナッジとは「肘でつつくように後押しする」という意味で、人々に自然に行動を促すことをさす。このようにアイディアだけで人の行動を大きく変えることができる。このナッジ理論により、臓器移植の提供に大きな変化を与え、提供者が何倍にも増加した。日本でも千葉市や八王子市で検診率の向上に役立っている。初期計画の設定、理解のしやすさなどが大きな特徴である。

がん検診の効率

1970年代でも、がんは致命的な疾患とされ、死を回避する様々な対策が行われた。がんは早期に発見すれば外科的治療で治癒することがわかつており、早期発見のための検診が急速に進められた。そして、半世紀が経過した現在は、治療患者の5年実測生存率は60%、がんを除くネットサバイバルは65%と発表されている。がんは発生部位により5年生存率はかなり異なるが、それにしても大きな改善である。しかし結核のように画期的な死亡率の減少が満たされないのは、有効な薬剤の開発が遅れているからである。特異的抗がん薬が発見されれば急速に死亡率は減ることが期待されている。

対がん協会グループの2021年度の検診成績を見ると、975.5万人の受診者のうち、がん発見は12,124例である。98%は異常なしであるので効率としては高くはない。しかし発見患者は早期が多いので治癒率は高い。検診の効果は死亡率だけ

ではなく、検診によるがん教育の普及、自己の健康状態の再認識の機会など、計量できないメリットがある。

一方、一人の患者を発見するのにかなりの費用を要するので、医療費が急増して各国の経済を脅かしており、一部の経済学者は検診効果について疑問を表明している。筆者は1990年代、英国において、前立腺がんの検診による死亡率低下は認めるべきものがあるが、患者は高齢者が多く、検診により救命し、生存期間をのばしても、その後の社会への経済的貢献度が小さいので、この検診は法律として採用されなかつたと聞いた。他国の処置として聞き流してはならない問題と受け取った。幸いにして現在も我が国では検診が続けられ、前立腺がんでも、検診後10年以上の生存者は筆者の周りに少なくない。しかし、有効な薬剤が出現すれば、がん検診の効率はさらに検討を余儀なくされるであろう。

喫煙問題について

米国で世界中の文献を集め、分析、その結果を米国公衆衛生長官から白書として出版、喫煙は肺がんと密接な関連があると結論したのは1964年である。欧米各国は1965年代から禁煙活動を開始した。当時、我が国では肺がんの死亡率が欧米の1／8と極めて低率であったこともあり、この結果を医学会も行政もあまり重視しなかった。しかしその後喫煙の研究が進展し、我が国の肺がん死亡率が急増するにつれて喫煙問題が広く論議され、20世紀末に、ようやく行政が中心となり、国の重要対策として本格的な禁煙対策が始まることとなった。

ちなみに、1970年代は男性の80%が喫煙者であったが急速に減少し、2010年代には男性の約30%、女性の約10%と低下したのである。喫煙率は学校教育でも重点が置かれたこともあり、若年者は健康に敏感で、喫煙開始者は少ない。しかし、30歳から60歳の年齢層では減少率が低い。タバコ産業も次々と新しいタバコを販売しており、

加熱式タバコも加わり、禁煙運動を逆行している。

現在の問題は、地域や家庭における受動喫煙対策であり、受動喫煙の子供に、化学物質過敏症が出ているとか、母親が加熱式タバコ喫煙者だと、子供のアレルギーが2倍に増えているという疫学調査結果が発表されている。喫煙者には脱ニコチンはかなり難しく、気長に対応せねばならない。

子供の受動喫煙防止には

1. 喫煙者や喫煙所の25メートル以内には近づかない。
2. ベランダや台所、自家用車での喫煙はしない。
3. タバコの煙はソファやカーテンに染みつき、有害物質を発生させる。したがって、家庭内の喫煙は控えたい。
4. 受動喫煙は子供の尿中のニコチン検査で数値としてとらえることができる。熊谷市では希望者に公費で学童の尿ニコチン検査をしており、10年間にニコチン検出率は1／10になっている。予防効果が出ていることを示している。

環境問題対策に向けた新たな検診車導入

昨今、気候変動に伴う地球温暖化対策は、メディアを通してよく聞かれるようになっている。そんな中でも大気汚染対策として、特にカーボンニュートラルが叫ばれているのはご承知の通りであり、健診業界でも少なからず貢献しようと各機関が努力している現状がある。

名古屋公衆医学研究所においても、オフィスの冷暖房設定温度の見直し、ハイブリッド社用車の増車、省エネタイプのエアコンや蛍光灯の交換等、社内的に実施してきた。

今回は基幹業務である集団健診に使用するレントゲン車の更新を行ったので紹介する。

集団健診が始まって以来、レントゲン撮影は常時実施され、名古屋公衆医学研究所でも胸部レントゲン車、胃部レントゲン車は言うに及ばず、近年ではマンモグラフィ検診車も加わり、日々多種多様な出張健診に出かけているのが現状で

ある。

以前、総合検診には胸部レントゲン車と胃部レントゲン車の2台の車両が出動していたが、これを車両1台に胸部と胃部のレントゲン装置を搭載することで効率的な健診を可能とし、燃料・排気ガスも車両2台分を1台分に減らし、環境問題対策のため令和3年に導入された。

さらに本年度は、大型蓄電池式電源システムを搭載した胸部レントゲン車に更新。これにより、健診中のレントゲン撮影装置運用や車内エアコン利用にも発動発電機を動かすことなく利用可能となり、健診会場での騒音問題、排ガス問題もクリアでき、環境にやさしい集団健診と受診者からも好評を得ている。

今後もレントゲン車に限らず、健診事業で何かしら環境問題に貢献できるよう試行錯誤していくと考えている。

(早川 慎司、兼岩 正彦)



胸部・胃部搭載検診車



胸部レントゲン装置

大型蓄電池搭載検診車

編集後記

発刊が遅れましたことをお詫び申し上げます。

人生100年時代についてはまだ実感がわかないという時期ですが、今後この傾向は加速すると予想されます。この時代を生き抜く基本は、食生活、運動、心の持ち方と、現代と変わりはないのです。順調に推移すると予想しています。我が国のAI化は遅ればせながら各領域で進展しており、検診機関でも積極的に進めてゆく段階にあり、各機関での進展を期待しております。

(青木國雄)

一般財団法人 名古屋公衆医学研究所のご案内

健診・検診のご案内

- がん検査・検診
 - 人間ドック、出張総合検診
 - 結核検診
 - 特定健康診査
 - 特定保健指導
 - 後期高齢者医療健康診査
 - 検診事後指導
 - 定期健康診断
 - 特定業務従業者健康診断
 - 海外派遣労働者健康診断
 - 労災保険二次健康診断
 - 法規による特殊健康診断
 - じん肺健康診断
 - 有機溶剤健康診断
 - 鉛健康診断
 - 電離放射線健康診断
 - 特定化学物質健康診断
 - 高気圧業務健康診断
 - 四アルキル健康診断
 - 情報機器作業健康診断
 - 振動健康診断
 - 騒音健康診断
 - 腰痛健康診断
 - 衛生検査
 - 生活習慣病健診
 - その他諸検査

日帰り人間ドックのご案内

- 問診調査
 - 胃部X線検査
 - 尿・腎機能検査
 - 心電図検査
 - 身体計測
 - 眼底検査
 - 血圧測定
 - 眼圧検査
 - 血液検査
 - 肺機能検査
 - 腹部超音波検査
 - 便潜血反応検査
 - 胸部X線検査

オプション検査

- 婦人科検査(女性のみ)子宮ガン
 - 乳がん検査(マンモグラフィ、超音波)
 - 骨粗しょう症検査(超音波)
 - その他 有

お申込方法

受診はすべて予約制です。
ご来所または電話・FAXでお申ください。

**電話: (052) 412-3111
FAX: (052) 412-2122**

- 名古屋公衆医学研究所ホームページ
<http://www.meikoui.or.jp>

公衆医学

検索

